

本委員会における検討経緯

平成31年3月25日(月)

交野市 都市計画部 都市計画課

第1回検討委員会

【平成30年2月16日（金）開催】

1. 諮問

交野市における今後の公共交通（鉄道交通を除く。）のあり方について（諮問）

（諮問事項-1）路線バスの維持継続方策について

（諮問事項-2）交野市内における公共交通体系のあり方について

2. 交野市における地域公共交通のあり方について

（1）公共交通に関する基礎知識

- 公共交通の意義～公共交通への期待
- 地域の公共交通に関する基本的な考え方 など

（2）交野市の地域公共交通の現状

- 地域特性の把握
- 交通特性の把握
- 市民の移動に関する問題点
- 南星台・妙見東・妙見坂の特性把握

第1回検討委員会

【平成30年2月16日（金）開催】

第1回検討委員会での意見等

【ゆうゆうバスの評価】

- 路線バスと概ね同じルートをゆうゆうバスが無料で運行していることが問題である。
- ゆうゆうバスは、車両の構造や運行ダイヤが障がい者にとって非常に利用しにくいいため、実際にはタクシーを利用している。ゆうゆうバスの必要性はあまり感じない。
- ゆうゆうバスを使っている人にとっては、便利で良いものと捉えている。

【ゆうゆうバスの改善】

- 路線バスとゆうゆうバスの兼ね合いの解決が改善には不可欠である。
- ゆうゆうバスを廃止して、市全体で便利な地域公共交通を再構成していくことが望まれる。その際、ゆうゆうバスの運行にかかっていた経費を京阪バスの助成等に活用してはどうか。
- ゆうゆうバスを有料化する場合、どの程度の運賃がよいか等を確認する必要がある。

第2回検討委員会

【平成30年6月1日（金）開催】

1. 路線バス・ゆうゆうバスに関するアンケート調査結果

（1）南部地域の特徴と地域公共交通の現状

（3）南部地域における今後の地域公共交通のあり方

- 路線バスが廃止された場合の対応
- 路線バス存続への協力方法 など

2. ゆうゆうバスの利用実態

- 運行・利用状況の説明（バス事業者）

3. 地域公共交通のあり方

- コミュニティバスと民間路線バスとの競合事例の紹介（近畿運輸局）

4. 地域公共交通の課題と改善

（1）地域公共交通の課題整理

- 住宅地と駅や商業・医療施設等を連絡する移動手段の確保
- 持続的な地域公共交通に向けた地域住民による利用促進や支援等の協力

（2）地域公共交通の改善方向（案）

- ゆうゆうバス改善を主軸に、地域での支援や、路線バスの改善のあり方を検討

第2回検討委員会

【平成30年6月1日（金）開催】

路線バス・ゆうゆうバスに関するアンケート調査（南部地域）での意見等

【ゆうゆうバスを**必要**と考える理由】

- ゆうゆうバスの必要性については、“自分達は必要ないが、**高齢者等には必要**” “現在は必要ないが、**将来的には必要**” との回答が多い。
- 65歳以上の高齢者でも、“将来的に必要” “今後必要” との回答が多くみられる。

【ゆうゆうバスを**不要**と考える理由】

- “市の財政が心配だから” “**税金の無駄遣い**だから” という市税に関する回答が多い。
- “その他” の回答として、**ゆうゆうバスの有料化**や**路線バスとの一体化**などの声がある。

【ゆうゆうバス利用状況】

- ゆうゆうバスの**利用頻度は低い**。
（週に3～4日程度以上使う方は5%に満たず、月に数回以上使う方も2割未満）
- ゆうゆうバスを利用する理由の第一は“無料だから”、第二は“（自宅からの）バス停の近さ”である。

第2回検討委員会

【平成30年6月1日（金）開催】

第2回検討委員会での意見等

【地域公共交通の現状と課題】

- 路線バスのみでなく、ゆうゆうバスも**永続的に運営できるかはわからない**。
- 南部地域では、同路線を違うバスが走っており、どちらを使うべきか分からない。
- 南部地域では、路線バス減便を機に**自治会として路線バス利用促進**に取り組んでいる。

【今後の地域公共交通】

- どのようなあり方が良いのか、皆で検討していかなければならない。
- **福祉交通のあり方**について、時間帯、移動手段など、求められていることの調査が必要。
- 路線バスは、**採算性の悪い区間以外の利用者も増やす**必要がある。
- 住んでいてよかったと思えるよう、地域公共交通のあり方を模索してほしい。

第3回検討委員会

【平成30年11月2日（金）開催】

1. 高齢者・障がい者の外出状況の把握に関するアンケート調査結果

（1）ふだんの移動

- 個人属性(外出の手段、頻度など)
- ゆうゆうバスの利用状況(利用目的、よく利用するバス停、など)

（2）健康・交流

- バス利用時の状況
- 移動、外出時等の健康状況

2. 今後の地域公共交通のあり方

（1）地域公共交通の問題整理

（2）地域公共交通の改善方向（案）

（3）地域公共交通の改善案の検討（素案）

- ゆうゆうバスの廃止も含めた既存外出支援サービスの見直し
- 地域公共交通の持続可能な運行体制の構築

第3回検討委員会

【平成30年11月2日（金）開催】

■今後の地域公共交通のあり方について

(1) ゆうゆうバスの廃止も含めた既存の外出支援サービスの見直し

- ゆうゆうバスの本来の目的である外出支援策を、他の施策との関連性も含めて見直しを行うことでゆうゆうバスから新たな外出支援策へ移行していく



※今後の外出支援のあり方については、別途委員会を立ち上げるなどにより検討

(2) 地域公共交通の持続可能な運行体制の構築

- 地域公共交通の積極的な利用の促進、運行の支援などを行うため、地域、交通事業者、行政がそれぞれの役割分担のもとで連携していく、持続可能な運行体制づくりをめざす。



第3回検討委員会

【平成30年11月2日（金）開催】

第3回検討委員会での意見等

【今後のゆうゆうバスのあり方】

- ゆうゆうバスは、経由地が多く、利用者にとって非常に利用しにくいいため**廃止すべき**である。
- ゆうゆうバスを廃止した場合、**路線バスがどのような運行となるのか**をあわせて整理する必要がある。
- 今後の地域公共交通のあり方を考えるためには、まず**ゆうゆうバスをどうするか**決めなければならない。

【今後の地域公共交通のあり方】

- 路線バスとゆうゆうバスとの競合から生じた問題をきっかけとして、市内の公共交通網のあり方を考えたい。
- 市全体の路線バス運営維持継続のため、**まちづくりを含めて考えていく**ことが望ましい。
- 外出支援の方向性は、現在の**ゆうゆうバス利用者**を踏まえて検討する。